



## 大塚先生より



皆さん、このコロナ禍の盛暑いかがお過ごしですか？  
昨年からコロナウイルス感染症を防ぐため、感染対策を徹底し、飛沫感染によるインフルエンザ、RSウイルス、手足口病などが全部流行しませんでした。が、ここに来て2021年春先あたりからRSウイルス感染症が秋田県でも増えてきて、能代山本地域でも6月～流行し、未だにパラパラと見られます。

なぜ今年になって流行しているのか？感染対策が雑になった？それだけではないと思われますが、不思議です。いろいろ調べてみましたが、明確な答えは見つかりませんでした。

ただ、昨年流行がなかった分、今年のRSウイルス感染は0歳児だけではなく3歳くらいまでに結構広がっていると思います(ただしRSウイルス抗原迅速検査は1歳児未満児および入院児にしか保険適応はありません)。

皆さん、感染対策はどのウイルスもほとんど同じです。頑張らしましょう！

## 熱中症について(予防対策)

### 熱中症に特に注意が必要な時期

- ・5月の暑い日
- ・梅雨の晴れ間
- ・梅雨明け
- ・お盆明け

体温調節機能が十分に発達していない子どもは、大人より熱中症にかかりやすいといわれています。より一層の予防対策をしましょう。

- ① 水分をこまめにとりましょう
- ② 熱や日ざしから守りましょう  
(衣服の工夫・帽子の着用など)
- ③ 地面の熱に気をつけよう
- ④ 暑い環境に置き去りにしないようにしよう  
(車内への置き去りなど)
- ⑤ 室内あそびも油断しないようにしよう  
(適切なクーラーの使用を)
- ⑥ 周りの大人が気を配りましょう
- ⑦ 外で夢中に遊びすぎないようにしよう



参考：はっぴい通信第4号・一般財団法人日本気象協会「熱中症ゼロへ」<https://www.netsuzero.jp/>

## 小児科外来より

7月に入ってから、暑い日が続いています。小児科外来ではRSウイルスやアデノウイルス、水痘に罹患する子が多かったです。また、頭痛や嘔気などの症状で受診する子も多かったです。

熱中症警戒が続いているため、こまめな水分補給、涼しい服装、外出時は帽子を着用、暑い時は無理をしないなどの熱中症予防をしてください。

引き続き感染症予防にも努めていきましょう。



## ハチに刺された!!



野外活動や肌の露出が増える季節です。刺された場合は、適切な処置をおこないましょう。

- ①流水でよく洗う
- ②針の根元をつかんで針を抜く(蜂の針には毒のうがある)
- ③毒を絞り出すように刺された部位を周囲から圧迫して洗い流す
- ④殺菌消毒薬で刺されたところを消毒する(アンモニアは効果がありません)

処置を試した後、息苦しさ、全身に蕁麻疹、顔色が悪い、10か所以上刺されている等が見られた場合は、医療機関を受診してください

※ 以前にも蜂に刺されたことのある人はアナフィラキシーショック症状が現れたりしますので、要注意です。



秋号は11月の発行予定です



独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)秋田病院

病児保育室はっぴい

〒016-0851 秋田県能代市緑町5-22 3階ナースステーション隣り

TEL (代表) 0185-52-3271 (予約・問い合わせ) 090-8924-4253

アドレス [happy@akita.jcho.go.jp](mailto:happy@akita.jcho.go.jp) ※メールでの予約対応はいたしません

